



東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9 Tel:03-3822-1111 Fax:03-3822-0086 (広報室)

プレスリリース

2007年2月

東京国立博物館庭園内 応挙館障壁画 複製制作

～最新のデジタル技術でよみがえる応挙の絵画空間～

東京国立博物館と大日本印刷株式会社(以下、DNP)は共同で、同博物館庭園にある応挙館の障壁画 41 面の複製画を制作し、一般公開いたします。

東京国立博物館庭園に所在し、茶室としても来館者の皆様に親しまれている応挙館には、江戸時代の画家円山応挙と山本守礼が描いた 50 面に及ぶ障壁画があります。これらの作品は、文化財保護の観点から移動可能なものについては収蔵庫に保管し、適宜展示室で作品を公開してきました。したがって、応挙館は創建当時の様子をそのまま伝えることができない状況となっていました。また、近年の施設公開や茶会での利用などにより、書院内に残っていた床貼付絵などにも、保存上の問題が生じてきました。

そのため東京国立博物館では、2005 年に応挙館障壁画の複製画制作に関する研究チームを構成し、美術作品の複製に実績のある DNP と協力して最新のデジタル画像処理技術と美術作品の独特の風合いを忠実に再現する特殊な印刷技法を駆使した複製画制作事業を開始しました。

このたびは応挙筆 37 面と守礼筆 4 面の計 41 面の障壁画が完成の運びとなりました。残る 9 面についても、現在作業を進めております。すべての複製作業が完了した際には、その成果によって応挙が意図した本来の立体的な構成を実感することが可能になります。複製画によって制作当初の空間を再現しようとする、東京国立博物館初の試みです。



東京国立博物館 応挙館

◆対象作品◆

今回複製を制作したのは、以下の計 41 面です。

(1) 書院一之間 ※「山水人物図」小襖(絹本金地墨画)を除き紙本墨画

- | | | | |
|-------------|------|-----|-------|
| ・「松に岩図」 | 床貼付絵 | 3 面 | 円山応挙筆 |
| ・「梅図」 | 襖 | 4 面 | 円山応挙筆 |
| ・「岩に笹図」 | 腰障子 | 4 面 | 円山応挙筆 |
| ・「岩に笹図・若竹図」 | 腰障子 | 6 面 | 円山応挙筆 |
| ・「山水人物図」 | 小襖 | 4 面 | 山本守礼筆 |

※3月11日(日)まで本館7室にて展示中

(2) 書院二之間 紙本墨画

- | | | | |
|--------|-----|------|-------|
| ・「芦雁図」 | 襖 | 4 面 | 円山応挙筆 |
| ・「芦雁図」 | 襖 | 6 面 | 円山応挙筆 |
| ・「芦雁図」 | 腰障子 | 10 面 | 円山応挙筆 |

◆応挙館と障壁画◆

応挙館の呼称は、内部の障壁画を円山応挙(1733～1795)が描いていることによります。もと尾張国(現在の愛知県海部郡大治町馬島)の天台宗寺院明眼院(みょうげんいん)の書院として、寛保2年(1742)に建てられたものです。同寺は薬師如来を本尊とし、古くから眼病治療をする寺として名声を博していました。障壁画は応挙が治療のお礼に揮毫したものと伝えられています。その後、明治時代に三井財閥の総帥益田孝(鈍翁・1848～1938)が買い取って、御殿山(東京都品川区北品川)の邸内に移築、昭和8年(1933)に当館へ寄贈されました。

一の間は、床貼付（とこはりつけ）に松、襖に梅の大樹を配し、違棚（ちがいだな）の壁と腰障子に若竹と姫松を描いて全体を松竹梅の吉祥図でまとめ、二の間は襖と長押（なげし）上の小壁（こかべ）および腰障子をすべて芦雁図で連関させています。写生に基づきながら写生を超えた、静かで装飾的な応挙ならではの空間が形成されています。床貼付絵の「天明甲辰春閏月写／平安／応挙」という署名から、天明4年（1784）閏1月、数え年52歳の作とわかり、応挙の水墨画の基準作として重要です。違棚天袋（てんぶくろ）の小襖のみは弟子の山本守礼（1751～90）が描きました。応挙はこのほか、杉戸4枚の表裏の絵も揮毫しています。



応挙館一之間 床貼付絵と違い棚

◆複製にあたって◆

今回は、杉戸を除く、応挙館の水墨の障壁画すべてを複製する計画です。200年あまりの星霜を経て、絵の表面にはヤケや剥落などが見られますが、原則として現状を複製することを大前提としました。

ただし、画面の変色の度合いが場所によって異なるため、状態のよい襖を基準として全体の地色と墨色の統一を図るとともに、不自然な汚れは目立たぬように抑えました。原本の紙継ぎ以外のところでは紙継ぎをしないという配慮もしています。サンプルを作成して何度も原本との比較検討を重ね、墨の濃淡の微妙な諧調がつぶれぬよう特に留意しました。絹本に全面金の裏箔（うらはく）を施した守礼の小襖は、絹目を通して裏の金箔が透けて見える様子の再現に努めています。



二の間長押上 小壁(現在収蔵庫にて保管)



一の間 違棚天袋（てんぶくろ）の小襖
応挙の弟子の山本守礼筆



朝顔狗子図杉戸(現在収蔵庫にて保管)

◆制作方法◆

1. 画像入力

①床貼付絵、襖、腰障子には、**高精細スキャナ**を使用。フィルムカメラによる複写と異なり、大きなサイズの対象物でもレンズ収差(注)のない画像データを取得することができます。

注：レンズ収差=光の屈折などによる画像のボケや歪み

②絹本裏箔(金箔使用)の小襖には、**大型フィルムカメラ**を使用しました。カメラ撮影ならではの特殊なライティングが可能になるため、特に裏箔の質感再現に威力を発揮します。

2. 画像処理

墨の色調、濃度、階調を管理するための独自の**カラーチャート**を作成し、応挙館障壁画専用のカラーマネジメントを行いました。最も保存状態が良い部分の色を基準としてデジタル画像上で全体の劣化、損傷を修復しました。このため、制作当時の原画により近い再現が実現しました。

3. 印刷

①床貼付絵、襖、腰障子については、DNP 独自の高耐久性の特漉き和紙に高耐光性のインキを用いて、**インクジェット印刷**を行いました。噴射方式により原画の柔らかな風合いを再現します。

②絹本裏箔(金箔使用)の小襖には、**オフセット印刷**方式を採用し、DNP 独自の高耐久性の特漉き和紙に金箔地に透過しない工夫を施した DNP 独自開発のインキを使用しました。

どちらの方式においても、高精細印刷により原画の色調、階調はもちろん、作者の筆勢まで忠実に再現しています。

作業工程



①作業前の応挙館一之間



②撮影前。襖絵の状態を確認。絵画の状態だけでなく、使われている表具についてもチェックし、複製画に使用する表具の参考にする。(写真は小襖)



③完全色といわれる墨色を再現するために特別に開発されたカラーチャート。これをもとに複製画の色を調整していく。



④撮影。デジタルスキャニングと8×10フィルム撮影を使い分ける。写真は特製のデジタルスキャナによるスキャニング



⑤ スキャニングした画像をその場で確認



⑥ コンピューター上でバーチャル洗浄を行う



⑦ 実物と比べながら、東京国立博物館研究員が最初の色校正



⑧ DNP 担当者の説明を聞きながらの再校正



⑨床貼付絵の最終校正。実際に壁に当てて検討する



⑩原画は綿密な打ち合わせを経て収蔵庫へ。
写真は床貼付絵（原画）搬出の様子。室外にあるのは
特製の収納箱



⑪完成後の複製画 一の間 梅図
(3月11日(日)まで本館7室にて原画を展示中)

～ご取材等のお問い合わせは～

東京国立博物館 事業部広報室
〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9
Tel: 03-3822-1302 (代表)
E-mail: pr@tnm.jp

大日本印刷株式会社 広報室
〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町 1-1-1
Tel: 03-5225-8220 (直通)
E-mail: info@mail.dnp.co.jp